

＜地域情報の発信における地域メディアの役割

～KTNのドキュメンタリーを手掛かりに

研究年度 令和3年度

研究期間 令和3年度

研究代表者名 賈曦

I はじめに

現在、地方の過疎化や高齢化に伴う人口減少、地方自治体の財政的窮状の他、医療・福祉・教育など様々な課題を抱えており、全国の地方都市で問題を解決するために地域ブランドの確立・発展に向けた戦略策定が一斉に推進されている。こうした現状の中、地域の再生に重要な役割を担うと期待されるのが地域メディアである。

特に地方のテレビ局には、地域社会における高齢化や過疎化、災害など、実際生活する社会で起こっている問題に向き合い、それらの題材にした優れたドキュメンタリーを制作することが評価されている。ドキュメンタリーは、「地域社会が抱える課題を顕在化しており、また、そのドキュメンタリーの放送が、それらの課題解決に向けた取り組みでもある」とされている。つまり、地域社会で起こった問題を、ドキュメンタリーという映像作品によって、可視化し、また放映によって、日本社会が直面している課題の全体像が浮き彫りになってくる。

II 研究内容

地域メディアはその土地ならではの資源を生かしながら、地域社会と地域住民の意識に大きな影響力を与える。特に地域性に深く関わり人々の共同性を媒介し、「地域関連情報の提供」と「地域社会の統合性の推進」の機能があるとされている。今回の調査は、テレビ長崎(KTN)が作られたドキュメンタリーを手掛かりとして、地方局が制作したドキュメンタリーの地域の社会文化的アイデンティティの生成・維持するに果たす役割を検証することにより、地域メディアによる人々のつながりとアイデンティティを創発する役割を具現化していきたい。

具体的には、2000年以後テレビ長崎が制作したドキュメンタリーの中に、FNSドキュメンタリー対象にノミネート作品を中心に考察し、これらの作品の内容分析により、地方メ

ディアによる地方創生に関わる情報発信について検討する。

III 研究成果

FNS ドキュメンタリー大賞に受賞した「ICHIGO 白書 親から傷つけられた子供たち」(2002)、「五島のトラさん〜9人家族の10年〜」(2003)、「たんぼぼ〜家族と見つけた幸せ」(2004)、「赤ひげの離島」(2007)、「鋼の絆〜島原の鍛冶屋5人兄弟〜」「五島のトラさん〜父親と家族の22年〜」(2012)、「潜れ〜潜れ〜対馬の海女さん物語」(2016)が代表しているよう、近年KTNが制作したドキュメンタリーの中には、地域に暮らす人を描くものが多く現れている。このように、地域で暮らし頑張っている人間を描くことによって、同じ地域に暮らす人々への共感と肯定を実感してもらうこととなる。つまり、人々の生活体験を通じて、アイデンティティという抽象的な概念を、日常生活の脈絡に戻して考え直すきっかけを作り、地域の社会文化的アイデンティティの生成・維持することにつながる役割を果たしている。

地方に暮らすドキュメンタリーの作り手が地元で生活している人の目線を通じて、その地域の現状を明らかにし、さらに、たくましい生き方や、家族の絆の変化など地域の人々の暮らしと、その悩みや喜び、そして課題を掘り起こし、地域の人々に元気をもたらし、励みとなると同時に、地域情報の発信という重要な役割も果たしている。つまり、その題材を発掘することで番組化がなされ、さらにそれがイベント化・映画化・全国放送・国外にまで広がっていくという発信へと展開することとなる。このように、地域に密着し、そこで生活する人々の暮らしや仕事、地域で活躍する人の思いや活動などと一緒に、地域の豊かな自然や、食、ライフスタイルなど「ローカルで暮らす魅力」を広く発信するが重ねる結果、地域が大きな付加価値を持つことに繋がり、地域の活性化に寄与していくことになる。

IV 終わりに

今回の調査は、KTNのドキュメンタリーを事例に、地域に根差した情報を発信する役割を担うローカルメディアが、地域の伝統や文化を記録すると同時に、社会文化的アイデンティティの形成と維持にも役割を果たすことを検討した。また、情報発信をうまく行うことにより、地域内の凝集性を高めるだけでなく、地方暮らしの素晴らしさを多くの人に知ってもらい、地域社会を見つめ直すきっかけにもなり、地方創生の深化にもつながっている。

くと期待できる。

コロナ感染拡大の影響で、『五島のトラさん』、『対馬の海女さん物語』などドキュメンタリーが制作された地域での位相を考察することができなかった。また、地方メディアが制作したドキュメンタリーが膨大な量があるため、今回の分析対象はほんの一部しかなく、限界があることを意識している。今後これらの課題を念頭におき、検証を補完していきたい。

参考文献

市村元・音好宏・「地方の時代」映像祭実行委員会編(2021)『地域発ドキュメンタリー・作り手と映像祭の挑戦』ナカニシヤ出版

大西 康司(2014)「地域を見つめ、地域と生きる：ローカル番組の現場から」『ジャーナリズム&メディア：新聞学研究所紀要』/ 日本大学法学部新聞学研究所 編 (7):2014.3 pp. 33-49

黒田 勇(2012)「地域社会における民間放送局の歴史と課題」『日本の地域社会とメディア』関西大学経済・政治研究所、pp. 1-28

関谷道雄(2017)「“地域性”に回帰する民放ローカル局の可能性」『放送研究と調査』2017年6月、pp. 76-96

原田健一(2018)「地域の映像とは何かーローカル局のドキュメンタリー映像の文化的、社会的文脈とその問題」『マス・コミュニケーション研究』No. 92 pp. 3-21

深澤弘樹(2013)『地域メディアの意義と役割：「つながり」と「当事者性」の観点から』駒澤社会学研究(45) 駒澤大学文学部社会学科、pp. 73-95